

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 静岡県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	熱海市立第二小学校							計	教員数
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	19
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	
児童数	72	60	75	74	65	75	0	421	

実践研究の概要

1 研究主題

「学びに喜びを見いだす子をめざして」 ～算数科の少人数指導～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科(選択した理由を付すこと)

1年生～6年生・算数  
 ・子供の理解の状況に差が開きやすい教科であり、特に個への支援が大切にされる教科である  
 と考えるため。  
 ・全教員、全クラスが取り組むことによりチームとしての教材研究、評価などを可能にし、  
 子供の力を上げることはもちろん教師の指導力を高めることができると考えたため  
 1,2年生 生活科 3～6年生 総合的な学習の時間  
 ・児童の興味関心や学ぶ意欲に支えられた主体的な学習を強められるため

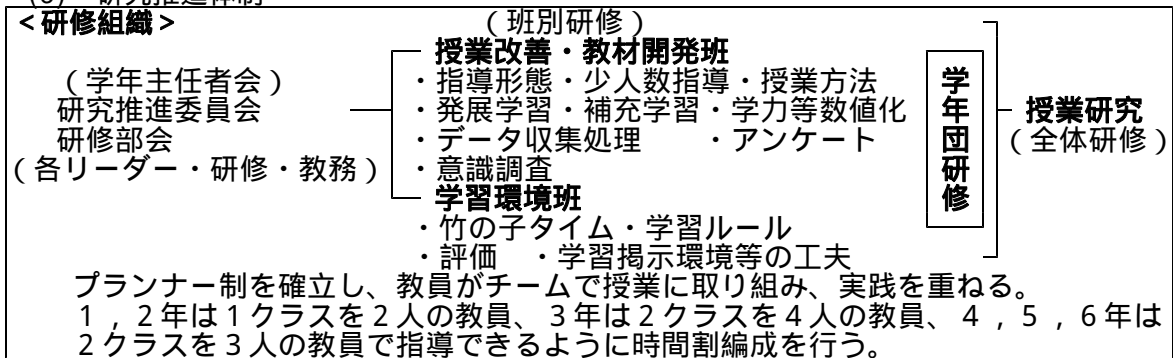
(2) 年次ごとの計画

平成14年度  
 テーマ  
 自ら学び共に高め合う子をめざして  
 ～わかって楽しい算数科、意欲を高める生活科と総合の少人数指導～  
 研究の見通し(仮説)  
 基礎的・基本的内容を観点別に押さえて学習のつまづきを早く発見すれば、個への支援  
 が的確にできる。  
 研究内容・方法  
 基礎学力の向上と、個性に応じた指導の両者を実現する調和した少人数指導の年間  
 指導計画を作成し、授業実践を通して学力向上に向けたものへと修正していく。  
 生活集団とは別に多様な学習集団を作り、子供相互のかかわりを増やし、多くの教  
 員で子供の発達を見守り、支援する。

平成15年度  
 テーマ  
 「学びに喜びを見いだす子をめざして」～算数科の少人数指導～  
 研究の見通し  
 少人数指導形態の工夫と併せて、個への支援を大切にした授業と評価を実践していくこ  
 とで基礎基本の定着を図ることができる。  
 研究内容・方法  
 授業研究を研修の中心に据えて、昨年度の年間指導計画を実践しながら改善し、少  
 人数指導の指導方法を確立する。(授業方法や学習形態の工夫)  
 子供たちが学習に意欲的に取り組みながら力を伸ばせるように、発展・補充教材の  
 開発を行う。  
 個に応じた支援・評価に取り組み、授業や竹の子タイム等で子供たちの基礎基本の  
 確実な定着をめざす。  
 ホームページ・学校便り・算数通信等で、保護者・地域・各教育機関等に情報発信  
 をしていく。

平成16年度  
 テーマ  
 「学びに喜びを見いだす子をめざして」～算数科の少人数指導～  
 研究の見通し  
 15年度の実践の上に立ち、プランナー制の確立、発展・補充教材の開発に力を入れ、  
 学び直しの時間を確保することで、基礎基本のさらなる定着をめざし、学習を生活に  
 生かし未来を見つめられるようになり、学習への意欲が高まる。  
 研究内容・方法  
 少人数指導の指導方法をさらに検証し、さくらプラン(全単元の年間指導計画)を  
 よりよいものにしていく。  
 発展教材の開発に力を入れるとともに、学び直しの時間を大切にして補充教材につ  
 いてもよりよい形を考えていく。  
 よりよい評価方法を確立し、評価の客観性を高める。また子供たちもコース選択や  
 学び合いの中で評価能力を育てていく。  
 HP、算数通信等で、保護者・地域・各教育機関等への情報発信を続ける。

(3) 研究推進体制



平成15年度の成果及び今後の課題

1 研究の成果

子供たちは算数を楽しいと感じ、意欲的に取り組むようになった。(とても楽しい・楽しいが68%から80%に増え、あまり楽しくない・楽しくないが、32%から20%に減った。)自分の学習方法で学ぶことで、力を伸ばし、自分に自信をもてるようになってきており、数や量や図形に関する感覚も豊かになりつつある。

算数の力(出文テスト)では全校で1学期と2学期を比べたところ、正答率70%以上の子供が次のようにふえた。数学的な考え方(8.4%増)表現・処理(5.3%増)知識・理解(8.3%増)また正答率50%以下の子供は次のように減った。数学的な考え方(1.0%減)表現・処理(4.0%減)知識・理解(0.5%減)

また定着度テストでは、5月に行った模擬テストと比べて70%以上の子供が1%増、50%以下の子供が2.1%減であった。(問題の質や数等もあるので出文の方が信頼性が高い)全校の正答率は81.3%であった。

教師は、教材開発を通じて、子供の力を伸ばすことを、今まで以上に大切にする意識をもつようになった。

さくらプランを作成し、ホームページや研究発表会で広めることができた。

2 今後の課題

単元構想と併せて、学び直しの時間を確保する工夫が必要である。

打ち合わせの時間の捻出。現状の学年団研修の時間の位置づけ、プランナー制に加えて、今年度積み重ねたものを有効利用することや年間教育活動計画と研修推進を連携していくことで改善を図る。

主に発展学習について教材開発を続けていく。

現在試行錯誤している評価に加えて、さらによりよい評価方法を探っていく。

さくらプランを改善しさらによりよいものにしていく。

学力把握のための学校としての取組

算数の力(出版文化会テスト)で各単元における基礎・基本の定着の様子を捉えていく。

評価しきれないものについては、単元の終わりに評価テストを作成し定着の様子を捉えていく。

定着度調査(静岡県教育研究会)で70点を超えた子の割合について、5月に行った模擬調査の結果と比較する。また、年度を遡って子供の変容の様子をつかむ。

毎時間つきたい力を明らかにし、授業中の表れや算数日記から評価用名簿に記入していく、チームで評価を行う。

フロンティアスクールとしての成果の普及

(6回の公開授業を行う 熱海伊東より各2~5名程参加)

5/28 3年「かけざん」 6/4 2年「いろいろな形」 6/13 6年「立体」 7/2 5年「いろいろな四角形」 10/7 4年「2けたでわるわり算」 10/14 1年「10より大きい数」

11月28日(金) 学力向上フロンティアスクール中間発表会

熱海市内、伊東市、静岡県内、和歌山県から 約176名参加

HPで研究成果を発信する・・・<http://www.i-younet.ne.jp/~dai2-sho/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |            |     |            |
|----------------------|------------|-----|------------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校 | ✓   | 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】               | 6学級以下      | ✓   | 7~12学級     |
|                      | 13~18学級    |     | 19~24学級    |
|                      | 25学級以上     |     |            |
| 【指導体制】               | ✓ 少人数指導    | ✓   | T.Tによる指導   |
|                      | ✓ 一部教科担任制  |     | その他        |
| 【研究教科】               | 国語         | 社会  | ✓ 算数       |
|                      | 生活         | 音楽  | 図画工作       |
|                      | 体育         | その他 | 理科         |
|                      |            |     | 家庭         |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |            | ✓   | 有 無        |